

健次郎は、きつそく友人と連れ立ってバンドマン夫人をおとずれた。そして、会津戦争後、学問の道まじを志して努力してきたようすを語り、このアメリカでぜひとも科学の勉強を続けたいと、自分の気持ちを残らずうちあげた。じつと聞き入っていたバンドマン夫人は、深くうなずき、

「わかりました。あなたは、学問に命をかけて大へん苦勞をしてきたようです。新しい科学の研究を目ざすあなたの決心はすばらしいことです。あなたが大学を卒業するまで、私がお金を出してあげましょう。ただし、一つだけ条件があります。」

「なんででしょうか。私の良心の許ゆるすことでしたら、どんなことでもお約束いたします。」

健次郎は、一瞬いつしゆん、不安な気持ちにかられながらそう答えた。

「ほかでもありません。あなたが大学を卒業して日本へ帰ったならば、あなた